

♪ ぽこ あ ぽこ ♪

♪ 2022年度 *poco a poco* ♪

Nr. 2 2022年4月21日(木)

文責:プファイル・辰巳

リズムにのって...

短縮授業が終わり、平常授業が始まりました。お弁当やお昼休みなど楽しみも増えますが、授業時間も長くなりますね。学校生活のリズムにのって、毎日元気に登校してくださいね。

新しい教科書を開くときのワクワクする気持ち、新しいノートに字を書き入れるときの緊張感など、新学期ならではの思いを大切にしたいと思います。音楽室でみなさんと歌ったり、楽器を演奏したりするのを、先生も楽しみにしています。



音楽こぼれ話 <その時、作曲家は... ④ ベートーヴェン

交響曲第3番「英雄」>

昨年度からの連載を続けます。作曲家がその曲を作曲していた頃の時代背景や作曲家自身を取り巻く状況を交えながら、いろいろな曲を紹介してきました。第4回目はベートーヴェン作曲交響曲第3番「英雄」のお話です。

ベートーヴェンは交響曲を9曲作曲しました。その中で副題が付いているのは3番の「英雄」、5番の「運命」そして6番の「田園」の3曲です。「英雄」は1804年、ベートーヴェンが34歳の時完成した作品です。それまでに作曲されていた交響曲1、2番に比べると、この3番はベートーヴェンの作曲技法が飛躍的に円熟し、その実力が十分に発揮された画期的な作品の一つと言われています。

ベートーヴェンがこの曲を作曲していた時代は18世紀末、フランスではかのナポレオン・ボナパルトが革命を指揮し、絶大な人気を集めていました。ベートーヴェンもナポレオンに共感し、彼を讃える曲として、この交響曲の作曲に着手しました。完成の

暁には「ボナパルト」と命名して、この曲をナポレオンに献呈しようとベートーヴェンは考えていました。ところが、ようやく交響曲が完成した1804年、民衆やベートーヴェンの期待を裏切って、ナポレオン自身が皇帝に即位、専制君主にのり上がってしまうのです。

この現実、それまで抱いていたナポレオンへの尊敬の念を失ったベートーヴェンは、「奴も俗物にすぎなかったか!」と叫び、ナポレオンへの献辞が書かれていた楽譜の表紙を破り捨ててしまった、という有名なエピソードは、みなさんも耳にされたことがあるのではないのでしょうか。

ところが、ウィーン楽友協会保存のベートーヴェンの浄書総譜には、表紙を破り取った形跡はないそうです。ただ、「ボナパルト」という題名とナポレオンに対して書かれていた献辞はペンでかき消されており、「シンフォニア エロイカ」と改題され、「ある英雄の思い出のために」と一筆書き加えられているとのこと。ちなみに「エロイカ (Eroica)」はイタリア語で「英雄」を指す言葉です。

それでもベートーヴェンはこの自作の出来栄には非常に満足しており、後年、自作品の中で一番のお気に入り、と聞かれたとき、「運命」でも「田園」でもなく、この交響曲第3番であると答えたそうです。



ちょっとだけ 演奏会情報

～パルメンガルト内 パパゲーノ劇場の演目より～

Die kleine Zauberflöte (小さな魔笛)

: モーツァルトのオペラ「魔笛」の縮小版

4月 22日(金)	16時から
23日(土)	16時から
5月 1日(日)	16時から
7日(土)	16時から
8日(日)	16時から

詳しくは www.PAPAGENO-THEATER.DE

